

春風秋霜 10月号

令和3年10月1日
島田市教育委員会だより
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 コロナ対策について

9月議会でもコロナウイルス感染症に対して議論されました。議員の中には、子供にマスクなしで行動させたいと考える方やワクチン接種の効果に疑問を持っている方もおり、学校のコロナ感染防止対策が厳しすぎるとの指摘もありました。

子供たちが感染しても重症化する割合は低く通常の風邪と同じ対応でよいと考える保護者と、子供から家族への感染を心配し感染対策を強めるべきと考える保護者もいます。そのため、夏休み後に予定通りの授業再開を歓迎する保護者がいる一方で、学校再開による感染への不安から、子供を自宅待機させる保護者もいました。

各学校は、様々な考え方をする保護者に対し、学校の方針を理解していただく必要があります。苦労は多いと思いますが、学校の実情を丁寧に説明し、理解していただくかありません。

また、オンライン学習についての質問もありました。非常時において中学校ではオンライン学習がいつでも開始できる準備が進み、小学校では学年に応じた準備が進んでいると答えています。教育委員会から持ち帰りについての文書を出しているのも、必要に応じ持ち帰らせ、試行させてほしいと思います。

一方、小学校低学年が親のいない時間に使うことの難しさは承知しています。最初は保護者のいる夜間での使用を想定し、学校で作った子供の文書を確認したり、提示された問題に答えたりすることから始め、動画の視聴などに広げていけたらと思います。

今後のコロナウイルスの感染拡大によっては、オンライン学習を行わなくてはならない場面が予想されるので、確実な進展をお願いします。また、学校でどのような取り組みを行っているのかを保護者に伝えることも大切にして欲しいと思います。

2 不登校対応について

島田市では、平成26年度まで順調に減少してきた不登校児童生徒数（以後 不登校）が平成27年度から増加し続けています。私が現職の頃は荒れた学校に居辛さを感じる不登校もいたので、学校が安定してきたとともに不登校が減り安心しました。しかし、教育長に就任後、再度不登校が増加し、その原因をつかめずにいました。

最近、兵庫県立大学竹内准教授の「スマホの普及に関する」という調査結果を目にしました。竹内氏によると平成24年ころから全国的にスマホの普及が進み、それに合わせて不登校も増加しているというのです。

また、それまでの不登校は暗くつまらなそうであったのに、これ以後の不登校は明るくなったことも特徴だと述べています。スマホが普及する前の不登校は家の中にある雑誌を読み終えれば、テレビを見るくらいしか時間をつぶす術がなかったのに、今は無料の動画やゲームが豊富にあり、ネットで誰とでもつながることができます。そのため、家にいることを苦痛と思わない、明るい不登校が増えたというのです。

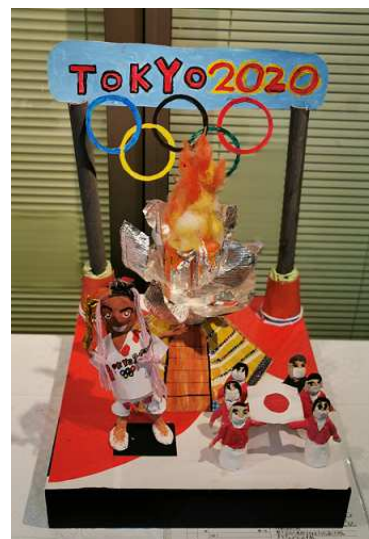
不登校になるきっかけは様々であっても、家での過ごし方、中でも、スマホの使い方

よって、復帰までに時間がかかることとなります。このリスクは、全ての保護者に伝えておく必要があると思います。

3 アイデア工作展を見て

9月15日（水）行われたアイデア工作展には市内から多くの作品が集まっていました。今年ならではの作品も見られ、オリンピック関係では聖火やピクトグラムを題材にした作品が目を引き、コロナ関連の作品もありました。家での時間が長いこともあったのか、時間を掛けた力作が多いと思いました。

中でも、オリンピックを題材にした作品は、五輪や聖火台だけでなくテニスの大坂選手も再現していました。1.5mもある段ボール製の車は、水素をエネルギーにしたコロナワクチンを冷却しながら運ぶ車になっており、現代の環境問題やコロナウイルス対策にも踏み込んだ作品に感心させられました。一般展示がなく残念でしたが、来年に期待しています。



肘かけ椅子

原 喜恵子 教育委員

「昔の遊びは素晴らしい」

私が子供の頃（今から50年以上前）、大好きだった遊びに胴馬（馬乗り）という遊びがありました。

2つのチームに分かれ、壁にもたれた子供の股ぐらに首を突っ込み何人かで列を作り、相手チームがその上に跳び箱のように乗っていきます。胴（跳び箱の箱の部分の子供）が上に乗った人の重みで崩れたら負けという遊びです。

胴になった時は、四つん這いの姿勢で上に乗った人の重みにしばらく耐えなくてはなりません。上に乗った時は、不安定な胴から落ちないようにバランスを取りながら前に進んでいかなくてはなりません。上になっても下になってもハラハラする遊びでした。

教師になってこの遊びを子供たちに伝えたいと思い、クラスで何回か挑戦してみましたが、1回も成功したことがありませんでした。そもそも股ぐらに首を突っ込むということが考えられないことで、なんとか突っ込んでも胴の体勢をとり続けることができません。たまに上に乗ることができても、乗ったとたんに腰が砕けてすぐ崩れてしまいました。気を抜くと大きな事故につながる危うさも感じました。

昔の子供たちが平気でやっていた遊びは、ゲームに時間を費やし、コロナや熱中症予防で外遊びが制限されている今の子供たちの身体には、厳しい遊びなのかもしれません。

「じんとり」「靴とり」「缶蹴り」「一歩三歩」などなど、遊びを通して知らないうちに全身の力が高められていた昔の遊びは、本当に素晴らしいと最近強く思います。そして、このような遊びが消えてしまわないようにと願っています。